



すすか倶楽部 原田 勝二 議員

- ①通学路の安全について
 - (1)集落間の通学路防犯灯設置について
 - (2)高齢者介護予防施設について
 - (2)介護予防公園について

質問① 集落間の通学路防犯灯の設置について、教育委員会、生活安全部の施策を尋ねる。

答弁① 犯罪の抑止と安全な市民生活を確保することを目的とし、設置する自治会等に対し、経費の一部を補助している。防犯灯整備の一層の推進を図るため、各中学校区の自治会やPTAなどの関係者に協力をお願いした。各学校においても、校長会等の

場を通じ、子どもたちの通学の安全を守るため、防犯灯の設置も含め、危険箇所を把握することなど、より積極的な取り組みを指導している。今後とも、集落間の人家の存在しない通学路については、防犯灯の設置に粘り強く取り組んでいく。

質問② 高齢者介護予防の施策として、市内の公園に介護予防遊具を設置する必要性は無いのか、保健福祉部、都市整備部の施策を尋ねる。

答弁② 公園での軽度の運動や友人との語らい等は、介護予防にも効果が期待でき高齢者の地域での見守りにもつながることから、施設整備について関係部局と調整を図りたい。遊具については、使いやすさや効果等を、先進事例や高齢者の意向などを把握し、今後の公園整備事業の中で取り組みたい。



市政研究会 森田 治巳 議員

- ①高齢者が地域で元気に暮らせるために

質問① 介護予防について、鈴鹿市の介護予防サービスの状況と方針は。

答弁① 高齢者の方が、できる限り住み慣れた自宅や地域で活動的な生活ができるように、介護が必要な状態になる前から適切なサービスを提供し、介護予防を推進することにより、明るく活力ある高齢社会の構築を目指している。鈴鹿亀山地区広域連合から地域支援事業の一部を受託し、介護予防については、要介護や要支援に陥るリスクの高い高齢者を対

象とした「特定高齢者介護予防事業」と元気な高齢者を主な対象とした「一般高齢者介護予防事業」を実施している。前者は、生活機能や精神的・社会的機能の低下している方に、早期に適切な介護予防サービスを提供することにより、状態の悪化をふせぎ、できる限り自立した生活を送れるよう支援する。後者は、在宅介護支援センター、グループホーム等において実施している、転倒骨折予防等介護予防教室、認知症予防教室等に栄養改善のための教室を追加すると共に、各地域で、介護予防に関する知識の普及、啓発事業を予定している。



無所属 板倉 操 議員

- ①特定事業主行動計画の推進状況について
- ②在住外国人との共生問題について

質問① 男性の育休取得等様々な取組みが決められているが、やり切るための年次計画はどのようなか。また妊娠中の教職員の職場環境は悪く、休憩室のない学校がほとんどである。人事課が事務局として積極的に推進していく必要が大であると思うがどうか。

答弁① 年次計画を立てるのか、また毎日目標を定めて推進すべきか、計画推進委員会で協議したい。学校の整備は教育委員会の管理だが充分協議したい。

質問② 外国人交流室の役割は何か。また国際交流協会との関係はどのようなものか。多文化共生検討会が数年開かれているが最近では参加者も少なく目的もはっきりしていない。見直しが必要ではないか。

答弁② 交流室の役割は、外国人を取り巻く問題点を整理して各課に情報発信し、各課の事業を把握し、全庁的な事業の検討をする事だと考えている。この方向に向かって条件整備をしていきたい。国際交流協会との関係については、外国籍市民との地域共生を進めるにあたり車の両輪である。意見交換し連携を取りながら事業を進めていきたい。多文化共生検討会の現状は指摘のとおりである。参政権のない外国人が意見を主張できる場として意義あるものになるよう検討したい。